

テーマ別検討資料 第1回テーマ「多くの方が参画する農業」

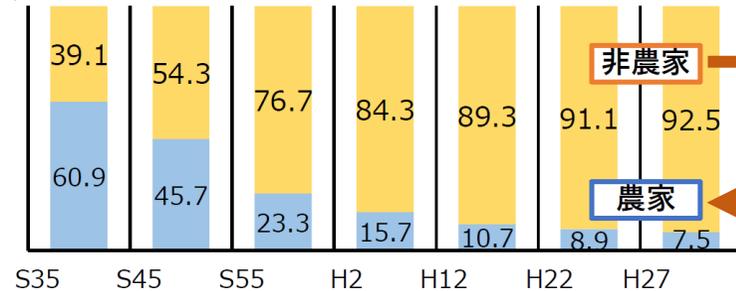
<農業経営体の推移(減少)>

| | 2010 | 2020 | 2030 (すう勢) |
|-----|--------|--------|---------------|
| 全国 | 168万 | 108万 | 54万 |
| 岐阜県 | 37,287 | 21,015 | 10,507* |

*2020年数値に国すう勢の減少率を乗じたもの

⇒人口減少を上回るスピードで農業経営体が減少

<農業集落当たりの農家率(%_全国)>

どうやって
非農家を
引き込むか

⇒農業集落では、非農家率が上昇。9割以上を占める

○いきなりプロの担い手を目指して育成する従来のやり方だけでは、どうしても対応しきれない。

○まずは「気軽に」農業に参入し、そこから本格農業にもつながるような「新しい道筋」を取り入れる必要がある。

多様な人々が“楽しく”農業体験する場
アグリパーク構想の実現

アグリパーク構想のイメージ

「がっつり体験」パターン

農業をやってみたい人々

身近な都市圏
(名古屋)

県内在住

＜将来の担い手育成＞



農薬不使用、有機野菜を
自分の手で一からつくる少
量多品目により、様々な収
穫と販売を体験

設置主体(JA等)
の活動促進

＜経済活動＞

- ・農産物の販売収入、対価
- ・魅力ある農産物が集まることによる地域活性化



- ・近隣の直売所、飲食店等に販売
- ・ECで全国へ販売

収穫物を
自家消費

自家消費を
超える分

「農業体験」から「本格農業」に
ステップアップを希望される方

農地のあっせんや農業資材の確保

＜食料自給率の向上、耕作放棄地解消＞

- ・小区画農地等を活用した「地消地産」農業
- ・専門的な農業（園芸品目など）

“場”として“農地”が不可欠。
基本スタンスは、市民農園（特定農地
貸付法）の制度を活用し、意欲のある
活動主体の取組みを支援。

“楽しく”農業体験する場 アグリパーク

＜多様な価値創出＞

国内外の
観光客

＜観光・経済＞

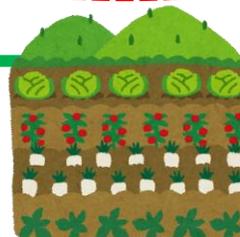
心身のリフレッシュ
収穫体験、農泊（GIFU-DO）

＜教育＞

食育、農業体験

＜福祉＞

高齢者の生きがい
障がい者の活躍



身近な都市圏
(名古屋)

県内在住

県内の
小中学校等

福祉事業所
障がい者

「スポット体験」パターン

食と農に興味がある人々